

平成 22 年度 徳島県立阿南工業高等学校 学校評価 総括評価表

1 教育目標

- ① 一人ひとりの生徒の個性や多様性を理解し、尊重する教育を推進する。
- ② 自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動できる教育を推進する。
- ③ 社会的な規範を尊重するとともに、人権に対する鋭い感性を磨き、自然との共生を推進する。

2 本年度の学校経営目標

- ① 個性や能力を伸ばし、進路実現が図れる学校づくりを推進する。 [学校力の向上]
- ② 人間としてのあり方生き方を身につけ、豊かな心を持つひとづくりを推進する。 [人間力の向上]
- ③ 体験的活動をとおして、確かな技術を身につけ実践できるものづくり教育を推進する。 [実践力の育成]
- ④ 働くことの意義を学び、主体的に生きる力を身につけるキャリア教育を推進する。 [キャリア力の育成]

3 重点目標と計画

自 己 評 価					学校関係者評価		
中期目標	重点目標	目標達成のための計画	評価指標・活動計画	評価指標の達成度・活動計画の実施状況	評価	学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方策
学校力の向上	① 基礎学力の定着を図る。	出張等による授業振替や学校行事等の精選，実施方法の工夫により授業時数の確保に努める。	年間の授業実施時数を1単位当たり年間35時間の85%以上確保することを目標とする。	1単位当たりの実施時数は平均87%程度になり目標の授業時数が確保できた。	B	◎家庭学習をしている生徒が少ないという状況がある。家庭で学習させるためには、まず教科書を持ち帰させることが必要である。資格取得に取り組む生徒が多いので補習だけでなく家庭学習をさせる対策を考え家庭学習の習慣化につなげて欲しい。	学校行事の精選や実施日の検討により授業時数の確保に努める。
		公開授業等を行うことによりスキルアップを図り，分かりやすく興味・関心が持てる授業を展開する。	生徒による授業評価と教員の自己評価で総合評価を行い，各教科の達成度を平均3.5以上にする。	学力向上やホームルーム活動で全クラスにおいて2回の公開授業と研究協議を実施し，各自のスキルアップ及び指導方法の改善に努めた。生徒による授業評価はほぼ達成できた。	B		今後とも分かりやすい授業を実施するため研究・公開授業や研究協議を持つ。
		各教科による家庭学習用課題の作成や学力向上カードの実践により，家庭学習の習慣化を図る。	家庭学習調査を実施し，前年度より増加している生徒の割合を50%以上にする。	1学期は約64%，2学期は約40%と低い提出率である。家庭学習をしている生徒は約1/3であり，昨年度と同様の数値である。	B		基礎学力を補うものであるので長期休業中の課題の提出は継続して実施する。
		生徒の実態に応じた習熟度別学習を展開する。	生徒アンケートにより，その満足度を65%以上にする。	数学，英語，国語で展開。あこう意識調査の結果，1年数学で72%，他は60%程度の満足度であった。	B		効果の上がる習熟度別学級編成に努める。
		自ら学び考える力を育成するためマインドマップ法を取り入れ学習意欲の向上を図る。	生徒アンケートにより，その満足度を65%以上にする。	工業技術基礎や情報技術基礎などでMMの基礎を，また講演会などでMMの活用を指導した。満足していると回答した生徒は1年70%を越えたが2年は50%程度となった。	B		継続的な取組や活動が今後とも必要であり生徒の学習意欲の向上に努める。
		校時を変更して朝のSHR時間を延長し基礎学力の向上を目指す取組を学年ごと	生徒アンケートにより，その効果を65%以上にする。	SHRを15分間に拡大し朝の読書や基礎学力の定着に向けての取組を実施した。アンケートは未実施だが時間と手間をかけることが大	B		”継続は力なり”が実証できるようにしていく。

	に実施する。		切である。			
② 進路実現を支援する。	2学年からのコース選択について、保護者・生徒が家庭でよく話しあえるようコース選定説明会の内容を充実する。	多くの保護者が参加するように呼びかけ、コース選択に対する生徒評価の満足度を65%以上にする。	保護者が参加しやすいよう休日と平日の夜間の2回実施した。参加率は昨年より17ポイント上がり約77%であった。各コース学習後の1学期末での生徒希望の内、約94%が第一希望のコース選択となった。	A	◎1年生で全てのコースの実習を体験してコース選択をするのは興味・関心の観点からも大変に良い。 ◎コース選択で希望どおりのコースに配属されないのは施設上からの定員枠があり、やむを得ないのではないか。 ◎2年生から専門コースに分かれる現制度では、専門分野の学習が遅れることから専門性が高くないのではないか。 また高度な資格も多く取れないのではないか。	本校への理解と生徒の将来を考える機会であり全保護者が出席できるように配慮するとともにコースの魅力づくりに努める。
	実力テストを実施する。1,2年生：国数英、年間4回、3年生：国数英社理、年間3回実施する。	実力テストが進路実現に役立つとする生徒評価を60%以上にする。	計画通り実力テストを実施した。あこう意識調査の結果、実力テストが役立つと回答した生徒は、1年生75%、2年生62%、3年生58%であった。	B		本年度より導入の"マナトレテスト"を考慮し実施回数を検討する。
	放課後補習を実施する。国語・数学・英語・理科（全学年対象）、社会（3年生対象）	昨年度と比較して実施時数を増加させ、出席率を上げる。	実施時数平均21回、2年生の出席率はほぼ100%であるが、他の学年は昨年度並であった。5教科以外にも危険物取扱者など資格取得対策の補習を各コース等で実施した。	B		放課後補習は出席状況が悪く部活動や資格対策補習との調整が必要である。
	3年担任、コース長、進路指導課が、最新の進路に関する情報を収集し生徒に適切な情報の提供に努める。	適切な資料や情報を収集するため中間考査時や学年末に昨年度以上の企業や大学訪問を行う。	経済の悪化から危機意識を持って企業や大学訪問を行い情報収集に努めた。県内企業25社、県外18社、大学5校と昨年以上に訪問を行い好結果につながった	B		生徒の進路選択支援のため産業界の最新情報や動向の収集に努める。
	3者面談や応募前職場見学を行い、生徒の能力・適性を生かした進路指導と進路選択の支援を行う。	生徒アンケートによる評価を行う。	応募前職場見学到18名が参加し進路選択や面接時に支援ができた。二次募集で内定したこともあり進路に満足をしている生徒の割合は約80%であった。	B		生徒の能力や適性に応じた進路実現ができるようキャリア教育の充実を努める。
	3年担任、コース長、進路指導課が連携し生徒の能力・適性を生かした進路選択の支援を行い進路実現を目指す。	一次内定率90%以上、就職内定率100%を目指す。	昨年度の反省を踏まえ本人と企業とのマッチングを考慮した進路支援を行った結果、一次内定率は約75%で昨年度より高くなった。就職内定率は95%で、未決定者には家庭と連携し支援している。	B		求人数が減少する中、生徒の能力や適性と企業の求める人材像を把握し一次内定率を高める。
③ 積極的な広報活動を推進する。	ホームページの内容を充実させるとともに、定期的に更新し最新の教育活動を広報する。	毎月5回以上、ホームページを更新する。	昨年度より担当者以外からも更新できるシステムに変更したことから月10回以上の更新となった。写真を多く取り入れ学校の教育活動等の分かりやすい紹介に努めた。	A	◎ホームページに公開授業の案内のPRを掲載してはどうか。	更新者が限定されるようになった。誰でも更新できるよう技術的サポートを行う。
	本校の教育内容や教育活動について、中学校で説明し広報に努める。	前年度以上に学校を訪問し広報する。	昨年度と同じ18中学校を訪問し、教育内容や特色ある教育活動、成果を挙げている部活動、良好な就職状況などの説明を行った。	B		本校の教育活動を紹介する取組であり積極的に訪問していく。
④ 学校開放を推進する。	中学生とその保護者を対象とする体験入学を充実させる。	中学生の参加者を前年度より増加させる。	四国中学総体や近隣校との実施日が重なったこともあり参加者は103名で昨年度より20名程減少した。参加校は24中学校と3校増えた。	B		周辺校の情報収集に努め、実施日の日程調整を行う。

		”徳島教育の日”に合わせ、中学生とその保護者、近隣住民に対し、公開授業、施設開放などを行う。	広報活動や内容を工夫し参加者の増加を目指す。	中学生とその保護者、地域の方の来校者は昨年度よりわずかに減少した。主として実習場を開放した。	B	◎来校者を増やす手立てを考えていただきたい。	次年度も引き続き実施し本校の施設や設備、教育活動を紹介していきたい。
⑤ 校内教職員研修の充実を図る。		授業力のスキルアップを図るため学校内外の講師による職員研修会を実施する。	教員研修を年間3回以上実施する。	職員研修、講演会を3回実施した。義務研修を含む公開授業を12回程実施した。全クラスで人権学習HR活動の公開授業、研究協議を実施した。	A	◎公開授業、特にMMの授業を見てみたかった。学校評議員にも案内をして欲しい。	生徒の学習意欲を引き出すスキルアップにつながるよう研修内容を検討する。
		教員のマインドマップ(MM)活用技術の向上を図り授業力の向上を目指す。	マインドマップを用いた教材を作成し公開授業を全クラスで実施する。	教材研究会を組織し2回開催した。公開授業は全クラスで実施した。MMを活用した危険物取扱者、電気工事士などの資格取得の教材を作成し自学自習用に生徒に開放した。	B	◎情報セキュリティは工業高校の特性が生かされており今後も対策を推進して欲しい。	MM法やコーチングの研修をとおして学習意欲を引き出す方法を習得する。
⑥ 情報セキュリティ対策を推進する。	情報セキュリティポリシー実施手順の自己点検を実施する。	情報セキュリティポリシーの遵守について年1回以上の教職員研修を実施し意識の向上を図る。	”PCの使用”, ”情報セキュリティポリシーの実施手順”などの研修を実施し意識の向上を図った。情報セキュリティ監査では良好との評価をいただいた。	B	◎3年目となる「高校生夢・未来育成事業」の成果に注目したい。	パスワード更新の頻度を高くしてセキュリティ対策に努める。	
⑦ 事業の実施による活性化を図る。	「高校生夢・未来育成事業」とおして、自らの進路や将来の夢・希望を考えさせる指導方法について実践研究する。	実践研究計画書に沿った取組について、生徒アンケート等により評価を行う。	県外講師を含む講演会を5回開催した。LHRや工業技術基礎などの科目でMMを活用して”将来の夢”などを考えさせた。生徒アンケートではキャリアアップの向上に役立つと回答する割合が高い。	A		MMを活用し生徒の夢や希望を実現する指導方法の研究、教材開発に努める。	
	「一人一人の夢を叶える就職支援推進事業」とおして進路実現に向けた就職指導支援策の充実を目指す。	実施計画書に沿った取組について評価する。	インターンシップや職場訪問の実施、地域の人事担当者や卒業生など社会人講師の活用、体験発表会の開催などの取組により進路選択能力の育成に努めた。	B		事業終了後も地域産業界との連携を深め就職支援への取組の充実を図る。	
人間力の向上	① 基本的な生活習慣の確立を図る。	規則正しい生活を心掛けるよう指導し遅刻をなくす。遅刻時の声かけ、遅刻回数に応じた個別指導を行う	1日の学校全体の遅刻数を7回以内にす。	今年度は1学年に遅刻常習者が多く目標は達成できなかった。遅刻回数に応じて係による個別指導をしたが改善の見られた生徒は少なかった。	C	◎遅刻常習者には気長に指導する必要がある。	学年団、担任との連携を密にするとともに保護者との協力体制を強化していく。
		積極的に明るく元気な挨拶が出来るようにする。(パワフル週間、学校安全の日)に指導)	すべての生徒が挨拶出来るようにする。	毎月のパワフル週間や自転車置き場での指導、校外での登校指導における声かけ運動により来校者に対して積極的に挨拶ができる生徒が増加した。	A	◎社会人になれば遅刻は許されるものではないことを理解させる。本人の意識改革が一番である。	元気な挨拶が本校の特色として定着するように今後も継続して指導していく。
		正しい頭髪服装を維持し爽やかに生活させる。(全校集会における頭髪服装指導と継続的な改善指導、帰宅指導を行う)	頭髪服装検査を月1回実施し、指導を要する生徒を1週間程度で改善させる。	頭髪服装検査の結果、指導を要する生徒は依然多いが、担任や係による朝の指導、帰宅指導を含む粘り強い指導により、ほぼ1週間以内に改善できた	B		根気強い指導を行うとともに保護者の理解と協力を得ることに努める。

② 人権意識の高揚を図る。	「人権を確かめる日」, 「人権教育統一ホームルーム活動」の充実を図る。	人権感覚を深めるため, ”あわ” 人権学習ハンドブックを活用する。	人権学習ハンドブックの活用のほか, テーマによってはインターネットからの引用により資料を作成し内容の充実に努めた。	B	◎達成状況や実施状況からすれば, 評価「A」と判断してもよい取り組みもある。	適切な資料を活用して活動が展開できるようにする。
	学校の教育活動全体をとおして, 人権尊重の精神を訴える。	人権意識調査等, 生徒による評価を 65%以上にする。	あこう意識調査の結果, 人権学習を肯定的に評価する生徒の割合は約 75 %であり, ほぼ達成できた	A		今後とも教育活動全体の中で人権尊重の精神を育てていく。
③ 環境教育を推進する。	生徒に自発的な清掃美化意識を喚起させ毎日の清掃を徹底させる。	出席率 100%を目途にする。(清掃出席簿により確認)	清掃分担場所での出席率調査では 95.3 %であった。	B		清掃に参加しない生徒の指導法を検討する。
	定期的の大掃除, ワックスがけ, 除草を実施する。	大掃除を月 1 回, ワックスがけを年 2 回, 除草を年 2 回実施する。	計画通りに実施できた。	A		広い校内で除草は大変な作業であるが年に 2 回は実施したい。
	循環型社会形成の推進のため教室等のゴミ資源を 6 分類する資源箱を設置し資源ゴミの分別を徹底させる。	学期に 1 回, ゴミ袋内の分類程度を確認する。(重量計測)	6 分類による分別は大体できるようになった。教室における缶とペットボトルは平均 98.5 %でほぼ分別できている。ラベル除去, キャップ除去についても習慣になってきている。	B		キャップ回収容器の設置による成果が見られるので更に分別回収への工夫を行う。
	電気, 水道の資源の大切さを理解させ, 節電, 節水に努める。	電気, 水道の使用量を前年度に比較して削減する。	電気は約 2 %減少, 水道は約 38 %以上の減少となった。漏水対策の結果, 水道使用量が大幅に減少した。	B		節電, 節水に努めるとともに, 早めに漏水対策をしていく。
	各コースの実習等において環境保全を意識した行動ができるよう 5 R 運動を実践する。	廃棄物の分別, ものづくり技術を生かした修理, 再使用, 有効活用などに取り組む。	主に工業実習において切削屑の分別, 不用 V V F ケーブルの銅線とビニルに分離分別やボランティア活動で車いすの修理など 5 R 運動に取り組んだ。	B	専門教育を生かした取組により環境保全についての意識を高めていく。	
④ 安全教育を推進する。	原付等の交通事故をなくすため, 実技指導, 講演会, 自転車点検を行う。	月間の交通事故 0 を目指す。	自転車の交通事故が 1 件発生した。原付免許取得者を対象に実技指導を教習所で実施した。毎月の学校安全の日の前後に 2 回, 自転車点検を実施した。	B	◎自転車事故は加害者になることも起こりうる。自転車のルールをきちんと教える必要がある。	事故を防ぐため, ゆとりを持って登校するよう指導していく。
	避難訓練をより実践に即した方法に改善する。安全に避難し人員が確認できるよう体制を整備する。	安全避難率 100%を目指す。	全校朝会などの集合時での人員確認が避難訓練に生かされ, 訓練時には全員が安全に避難できていることをスムーズに確認できた。	A		さらに効果的な避難訓練方法を検討する。
⑤ 健康教育を推進する。	円滑な教育相談活動を実施するために教育相談の広報活動を行う。	教育相談室を毎日開室する。教育相談だより”やすらぎ”を年 3 回発行する	教育相談室”ほっとる一む”を毎日開室した。”やすらぎ”は 10 ~ 12 号の 3 回発行した。入室・相談しやすい雰囲気づくりを行うなどの工夫をした。	B	◎心のケアをしつかりと行って欲しい。	”やすらぎ”の内容の充実を図る。
	自らの健康管理ができるよう継続的な保健指導を行う。	保健室を繰り返し利用する生徒数の減少を目指す。	教育相談的なケアを求めて繰り返し保健室に来る生徒が多くいたが, 継続的な指導により頻度は少なくなった。	B		生活習慣に問題のある生徒の保健指導を充実させる。

		正しい食生活を実践できる態度を育てる。	朝ごはんをしっかりと食べる習慣を身につけるための朝食づくり実習等を実施する。	今年度初めての試みである朝食づくりには9回延べ44名が参加した。味噌汁や簡単な副食が作れるようになった。	A	◎朝食づくりはいい試みである。 (来年度は全員に朝食づくりに挑戦させる予定である)	継続して取り組んでいく。
⑥ 読書活動を推進する。	”朝の読書”を定期的を実施し、読書習慣の定着を図る。	朝の読書を1ヵ月3回実施を週2回に拡大し、その効果をみる。	1学期は月火を”朝読の日”として取り組んだ。2学期以降は学校行事で確保が困難となり基礎学力の強化など学年の裁量に任せた。	B	拡大したSHRの時間の効果的な活用を検討する。		
	図書館の蔵書の充実と整備に努める。	新着図書等のディスプレイを工夫し図書館だよりなどを通して興味・関心を引く書籍情報を発信を行う。	新着図書の紹介コーナーを館内2カ所に設置し、内容を紹介するコメントを工夫するとともに図書館だよりでの広報に努めた。図書貸し出し数は前年度より増加した。	B	図書館だよりの発行回数を増やし新着情報を発信する。		
⑦ 特別支援教育を推進する	特別な支援を要する生徒を把握し必要な支援を行う。	支援を要する生徒についての会議を学期に1回実施する。	該当生徒2名の教科担任会を開き生徒への理解、対応についての共通認識を持った。職員には外部講師による希望研修を2回開催した。	A	◎文化部への入部生徒が少ないのが気になる。	全教職員を対象とした研修に拡大したい。	
⑧ 特別活動の活性化を図る	活気ある部活動を実施するため全員加入を目指す。	昨年度実績以上の入部率にする。	文化系の部活動への入部が少ないが、全体の入部率は昨年度並みの80%程となった。	B	◎活躍している三味線部への新入部員の勧誘に力を入れて存続を願う。文化部は指導者が必要であるので確保できるようにしていただきたい。	学年により差があり入学当初の勧誘方法の工夫が必要である。	
	競技力の向上を目指す。	前年度を上回る成績や、活動実績を上げる。	複数の部活動で連続優勝記録を伸ばすなど全体的に昨年度並みの実績を挙げた。文化部も活発な活動成果を残した。	A		切磋琢磨して全体として活発な活動ができるようにする。	
	生徒が自主的に活動する生徒会行事を実施する。	生徒会主催行事を年5回以上実施する。	阿工祭、生徒総会、予餞会、ボランティア活動、全国大会等の壮行会など計画通りの行事を実施した。	B		学校行事以外の生徒会独自の活動を計画していく。	
	学校行事、特に体育祭、文化祭の内容を充実させる。	昨年度以上の文化祭の来校者数をめざす。体育祭では、地域の幼稚園等との交流を図る。	文化祭は前夜祭が開催できなかったが当日は昨年以上の来校者があった。体育祭では近くの幼稚園・保育所との交流を行った。	A		体育祭、文化祭ともさらに活気ある行事にしていきたい。	
⑨ ボランティア活動を推進する。	地域とともに歩む学校づくりを推進するため生徒会が中心となってボランティア活動を実施する。	校外でのボランティア活動を年3回以上実施する。	車いすボランティアを生徒会を中心に実施した。インターアクト部は学校周辺や阿南駅の清掃、学童保育での活動、音楽部は老健施設などで演奏活動を行った。	B	それぞれが単独した活動が多いので連携した取り組みを検討していきたい。		
実践力の育成	① ものづくりの技術・技能の向上を図る。	地域における技術技能に卓越した外部講師による技術講演会や技術講習会を開催する。	生徒アンケートによる評価を行う。	電気コースと情報土木コースが、専門教育に関連する現場に出かけ技術者から実技指導や講習を受けた。生徒には好評であった。	B	◎溶接のコンテストはできないのか。いろいろと取り組んでいることをもっとPRすべきである。	生徒の興味関心の持てる技術講演会を開催する。
		新技術に対応できる教員の資質向上を図る。	学校外の研修に積極的に参加する。	県総合教育センターや県外企業の工業技術力の向上研修に10名を越える教員が参加した。	B		出張の精選を図るも必要な校外研修を確

						保し技術力の向上に努める。	
② ものづくり技術を生かす。	旋盤作業、電気工事作業、測量競技など高校生ものづくりコンテストに出場する。	県におけるコンテストで上位の成績を収める。	旋盤作業は県大会で連続優勝ができたが、四国大会でも連続して3位となり全国大会出場には届かなかった。他の2つのコンテストは入賞できなかった。	B	◎ものづくり技術が生かせる取り組みは生徒の自信につながるものである。	四国大会に常時出場できるよう日々の練習に取り組みさせていく。	
	ものづくり技術や工業技術を生かしたロボット競技会など各種競技会に出場する。	各種競技会で上位の成績を収める。	競技ロボット、マイコンカーラリーとも入賞に届かなかった。旋盤3級技能士に昨年倍増の7名が合格し2名が一般を含む中での優秀賞である知事賞、協会賞を受賞した。3年連続の快挙となった。	B	◎連続しての優秀賞は素晴らしい。 ◎ロケット教室は好評であった。見学をしたかった。	大会直前でなく年間を通して技術の向上が図れる体制づくりを行う。2級技能士に初挑戦させる。	
	ものづくり技術を生かし近隣の小学校等で生徒による出前授業を実施する。	出前授業は5校以上の実施を目指す。新しい学校との連携に取り組む。	出前授業は実施できなかったが、市科学センター主催の科学の祭典では本校生徒の指導により小学生に科学の面白さを体験させた。	B	◎地域貢献は大変に良い取り組みである。マスコミを使ってもっとPRやアピールをすべきである。	早い段階から小学校と連携して出前授業を計画し実施したい。	
③ 地域貢献を推進する。	ものづくりの楽しさと学校理解を図るため「ものづくり親子教室」等を開催する。	参加した小学生親子のアンケートによる評価を行う。	小学生親子20組を対象に本校生徒の指導のもとで「ロケット教室」を開催しグラウンドで自作ロケットを打ち上げた。大変に好評であった。	A		好評であるので「ロケット教室」を継続し特色ある取り組みとしていく。	
	地域や小中高等のニーズ把握を踏まえたものづくりを通して地域貢献、学校間連携を図る取組を実施する。	該当者への満足度などのアンケート調査による評価を行う。	学校近辺の小学校や高校と連携したものづくりを実施した。一輪車置き台、野球用防球ネット、ホッケー用コートベンチなどを製作した。	B	◎学校への製作依頼要望はあるのか。PRすべきである。	学校間連携を通して本校の教育活動を理解してもらい取組を実施していく。	
	④ 安全作業教育を推進する。	各コースの実習等において、事故やけがが起こらない指導に努める。	実習前の健康や作業服等の確認、注意指導を徹底する。	各コースにおいては実習前の安全点検や注意、実習中は生徒の動向への気配り、実習後には整理整頓の指導など安全作業教育を行った。	B		安全教育を通して健康等の自己管理能力を身につけさせる。
	実習場の機械や装置を整備し常に安全に作業できるように努める。	安全を確保するため実習機械の点検や整備を行い、不備な箇所については安全対策を講じる。	各コースとも実習装置・器具のメンテナンス、フェールセーフ対策、古いものについては交換をするなどの対策を講じた。	B		企業のZD運動、5S運動などを取り入れ、事故のないように取り組んでいく	
キャリア力の育成	① 阿工版デュアルシステムの充実を図る。	2学年全員参加の短期インターンシップを実施し、生徒の進路希望や学習内容に応じた企業先で体験できるようにする。	成果発表会を実施するとともに受け入れ先企業や参加生徒のアンケート等により評価を行う。	2年生全員が31事業所で2日間実施した。各クラスの代表者が全校生徒を対象とした成果発表会において体験などを発表した。2年生4名が県の事業である2週間のインターンシップに参加した。	B	◎授業で習ったことが生かせる事業所でインターンシップを実施するなどして効果をあげて欲しい。	専門教育に関連する企業等でのインターンシップができるよう企業開拓を行う。
		3学年希望者が参加する長期インターンシップを実施し、しっかりとした職業意識を育てる。	受け入れ先企業や参加生徒のアンケート等により評価を行う。	自動車整備工場、鍛冶屋、コンクリート工場で長期インターンシップを実施した。昨年度より大幅に増え延べ21名が参加した。	A		長期インターンシップを通して確かな勤労意識を育てていく

	② 望ましい職業観の図る。	企業見学や現場見学を通して職場の状況や働くことの大切さを理解させる。	生徒アンケートによる評価を行う。	修学旅行での県外の企業見学、従来から実施している土木関係の現場見学により、専門教育の学習の深化につながった。	B	◎就職関係の講演会などは1年生から聞かせた方が良いのではないかと。 ◎少数精鋭より多くの生徒が資格に挑戦するようにして欲しい。合格率をもっと上げるような指導をして欲しい。	企業見学、現場見学の機会を確保する。
		卒業生や企業経験豊かな社会人講師の活用により、働くことへの意欲の向上や職業に対する意識の高揚を図る。	生徒アンケートによる評価を行う。	就職セミナー、人事担当者による進路講演会、開校記念講演、地元企業技術者による技術講演会、昨年度卒業生による就職の心構えなど講演の実施により、望ましい勤労観・職業観の育成に努めた。	B		企業の方や先輩から働くことの楽しさや職業人として求められることなどの講演をお願いする。
	③ 起業家精神を育成する。	模擬株式会社「鉄男」を設立し生産から管理・販売までの一貫した起業家教育を展開する。	ビジネスプランどおりに運営ができたか生徒による評価を行う。	プラン通りの運営等ができ、社員全員が活動に満足したとの評価をした。高校生産業教育展や阿工祭において広報活動や販売実習を行い車椅子の購入につながった。	A		本校の特色ある取組として「鉄男」による起業家教育を展開している
	④ 資格取得を推進する。	工業の基礎技能である計算技術・情報技術検定について一斉指導、個別指導、補習を実施し合格を目指す。	合格率をあげる。	計算技術検定は93名が合格(48%)、情報技術検定は83名が合格(56%)である。昨年度に比較して合格者数はほぼ同数であるが、合格率は大きく減少した。	C	◎第2種電気工事士のクラス全員の合格は素晴らしい。他の生徒に対してやればできるという自信につながる。	全員合格を目標として取り組んでいく。
	専門の資格・検定の取得を推進するとともに計画的な補習により合格を目指す。	昨年度以上の合格者数、合格率を目指す。	第2種電気工事士は23HR全員30名が合格した。危険物取扱者の国家試験の合格者数、合格率は昨年度に比べ減少した。	B	合格者、合格率を上げるため計画的な補習を実施する。		
	資格・検定の取得に向けた教材づくりを行う。	MM教材、CAI教材など自学自習ができる教材を教科・コースで作成する。	危険物取扱者乙1～乙6、第2種電気工事士について分野ごとのMMを作成しHPに公表した。	A	他の資格対策用の自学自習教材の作成に努める。		
阿南寮の運営	① 基本的な生活習慣の確立を図る	寮の生活時間を守らせ、遅刻、欠席の防止を図る。名札掛の運用により生活状況を把握するとともに自己の生活管理をさせる。	出席状況を昨年度と比較し良好にする。遅刻を5%以内にする。	舎監による登校前の細やかな指導により全体として遅刻は5%以内になった。女子はほぼ0%であるが男子は昨年度より多くなった。	B	◎遅刻がもう少し少なくなるように指導をお願いしたい。	部活動で帰寮時間が遅い男子生徒への生活をどう自己管理させるかが課題である。
	② 自主学習の習慣を定着させる。	進路実現に向けた自主学習習慣の確立を図るため、学習室を活用させるとともに所属校との連携を図り、成績不振者の把握や個人面談を行なう。	月に1回各校の行事予定を掲載した「生活学習記録表」を作成し学習管理をさせる。学期に1回成績不振者の把握するため各校の訪問を行う。	月1回所属校を訪問。「生活学習記録表」に基づき学習の自己管理をさせた。学期毎に把握した出席・成績状況や「寮訪問」による担任との情報交換等を生かし指導を行った。昨年度設置した女子自習室にエアコンの有効利用に努めた	B		自主学習については女子生徒は習慣化している。遅くまで部活動に取り組んでいる男子生徒の指導に努める。
	③ 美しい寮の環境をつくる。	定期的に清掃を実施するとともに、ゴミを阿南市の分類に沿って分別する。	各舎室の清掃状況を週に1回点検する。大掃除を学期に1回実施する。ゴミの分別を点検する。	週2回(月・木)の一斉清掃とゴミ分別を実施した。舎監の細やかな指導によりゴミ分別はほぼできている。大掃除はほぼ毎月実施した	A		各舎室の絨毯を張り替え環境整備がされた。日頃より整理整頓の指導を行う。